



語りだしたら止まらん。
だから...
はじめの古考の話



縁がやんが
神様と信じてる
樹齢500年の老木



漬物自慢のはあちゃんる人集



ほっかいどうムラの宝物

北海道遺産構想第2章

「ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト」

<http://www.hokkaidoisan.org/muranotakara>



その絵巻物には
秘室の在り処が
記されてる」とか、「
いない」とか

「ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト」とは



タカラモノをさがしに出かけよう!

目的

～「北海道各地の宝物を掘り起こし、発信し、活用することで、地域やまちの魅力を創造していく」という北海道遺産構想の趣旨を全道へ波及させることです。

「ムラ」

～人々の集まり・集合体を表しています。地域単位の集まり、自治体、団体、企業、商店街など、人が集まるところに、宝物は生まれ、育まれます。

「ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト」のジャンル

[ジャンル]

(1)「ムラの宝物」

=自然、歴史、文化、生活、産業、人など広い意味での地域の自慢

(2)「ムラの売りもの」

=特産品など地域が自信を持っておすすめする売りもの

(3)「ムラのごはん」

=売り出し中の料理や地域が育んできた食文化

(4)「ムラの宝物の発掘・活用」

=地域学や地域遺産の発掘、ユニークな地域再生プロジェクトなど地域の宝物を掘り起こしたり活用している事例

※単体に限らず、たとえば坂の多いまちが「わがまちの坂のある風景10選」など、新しくPRしたいテーマでの申請も受け付けます。

※国・道・市町村の文化財としてすでに登録されているものは対象外となります。
(ただし複数の宝物を一括して登録申請する際、文化財が含まれるケースは受け付けます)

登録申請について

[登録申請について]

応募者は

①自治体(市町村)、②商工会・商工会議所、③観光協会
に限定させていただきます。

※個人や企業が応募する際は、上記応募者と協議・連携のうえ、応募者の名義で登録申請を行ってください。

[登録手順]

- (1)候補申請:候補名、概要のほか、写真(2枚)等の資料を添付して応募
- (2)内容確認:必要に応じて事務局により応募内容の基礎調査
- (3)登録審査:「ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト実行委員会」による審査
- (4)登録:「ムラの宝物」「ムラの売り物」「ムラのごはん」として登録

※申請は随時受け付けます。

※登録審査は年2回を予定しています。

応募方法

[応募方法]

○専用の応募用紙に必要事項を記載のうえ、Eメール、FAX、郵送いずれかの方法で事務局までお送りください。

○応募用紙は下記よりダウンロードできます。

<http://www.hokkaidoisan.org/download.htm> (EXCEL形式)

①Eメール

応募用紙に必要事項を入力して、写真等を添付の上、メールタイトルを「ムラの宝物」としてinfo@hokkaidoisan.orgに送信

②FAX宛先

011-232-4918(NPO法人北海道遺産協議会宛て)

③郵送宛先

〒060-0001 札幌市中央区北1条西5丁目3 北一条ビル5階
NPO法人北海道遺産協議会

[応募締切について]

応募は隨時受け付けています。1年に2回程度の登録審査を実施し、順次ホームページで公開していきます。

ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト実行委員会

[委員]

辻井 達一	NPO法人北海道遺産協議会会長
佐藤 誠	北海道大学観光学高等研究センター教授
かとう けいこ	シーニックバイウェイ支援センター事務局長
戎谷 侑男	株式会社シービーツアーズ代表取締役社長
山重 明	株式会社ノーザンクロス代表取締役

[事務局]

NPO法人北海道遺産協議会 事務局

〒060-0001

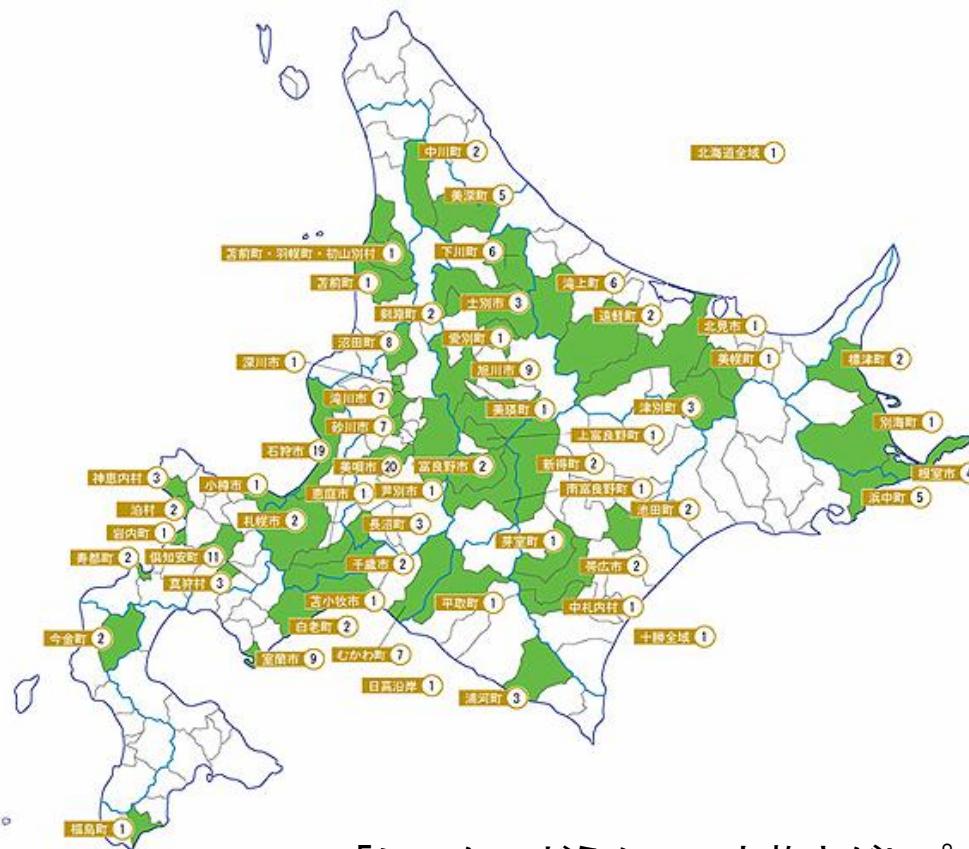
札幌市中央区北1条西5丁目北一条ビル5階

TEL 011-218-2858 FAX 011-232-4918

E-mail info@hokkaidoisan.org

「ムラの宝物」登録結果（平成21年7月末日現在）

- ・ムラの宝物 115件(39市町村)
- ・ムラのごはん 30件(17市町村)
- ・「ムラの宝物」活動事例 8件(6市町村)
- ・ムラの売りもの 35件(19市町村)



「ほっかいどうムラの宝物さがしプロジェクト」登録分布図

登録された「ムラの宝物」の例

[自然]

四角い太陽(野付郡別海町尾岱沼)



概要

野付湾付近で冬場の朝に数回出現する自然現象で、空気の温度差によって起きる蜃気楼の一種です。蜃気楼とは暖かい空気と冷たい空気の境目で光が反射、屈折して遠くにあるものがゆがんだり、あるはずのないものが見えたりする現象です。四角いだけではなく、六角のときや雲がある場合はワイングラスの形になることもあります。

尾岱沼の白鳥台が人気のスポットとなっています。



[歴史]

旧狩勝線(上川郡新得町狩勝トンネル～落合駅まで)



概要

旧狩勝線は、1897(明治30)年に建設が始まり、難工事の末、1907(明治40)年9月に新得～落合間が開通し、北海道の東西を結ぶ鉄道輸送が始まりました。新得～落合間は狩勝峠を越えることから「狩勝線」と呼ばれ、北海道東部の拓殖がより一層進むこととなり、新得町は鉄道の開通によって交通の要所として発展しました。

しかし、この区間は日本国内の鉄道路線の中でも自然条件と運転の条件が厳しかったため、1966(昭和41)年に現在の新線に切り替わりその使命を終えました。その後は「狩勝実験線」として、日本の鉄道技術向上に貢献し、瀬戸大橋の設計にまで影響を与えた実験などが行われました。

現在でも同線には、その当時に建設されたレンガアーチ橋や石造りのトンネルなどが現存し、新得駅から旧新内駅の約11kmについて、「狩勝ポッポの道」として遊歩道を整備しています。

登録されたムラの宝物の例

[文化]

下の句かるた(百人一首) (北海道各地)



概要

百人一首は1235年、藤原定家により編纂されました。元禄時代にかるた遊びが始まったと言われています。

下の句かるたは、北海道に伝わる独特なルールの百人一首です。通常の百人一首は、上の句を読んで下の句の札をとりますが、下の句かるたは下の句を読んで下の句の札をとります。また、本州では紙製の札ですが北海道では木製の札を使うことが特徴です。

下の句かるたの発祥については、北海道説、会津若松説と分かれていきましたが、現在は文化文政時代(1804～1830年)に会津若松殿中にて作成され、楽しまれていたという説が有力です。北海道には1855(安政2)年から明治初期にかけて伝わったと推測されますが、定かではありません。

1905(明治38)年にはかるた大会が開催されており、現在も続いています。一般家庭でも終戦後から昭和40年代にかけて盛んに遊ばれるようになり、今日に至っています。

現在、下の句歌留多協会が設立されており、東京や北海道の計40支部が協会に加盟しています。

[生活]

アザラシの油を塗った家 (厚岸郡浜中町琵琶瀬542)



概要

昭和30年代に故杉田忠明氏が浜中町琵琶瀬地区に建設した住宅で、防腐加工を兼ねて住宅保存のため自分で捕獲したアザラシやトドの油を住居全面に塗ったものです。



登録されたムラの宝物の例

[産業]

FSC認証材「元禄箸」(上川郡下川町南町146)



概要

下川町は、2003(平成15)年北海道で最初に、適正な森林管理により生産された木材であることを認証する「FSC認証」を取得しました。

FSC認証とはFSC(森林管理協議会)という国際的な森林認証機関により定められた、森林管理を改善する・森林にダメージを与える前に森林資源を有効活用する・過剰な伐採を避ける、などを骨子とした「10の原則と56の基準」について検査を受け、基準をクリアした森林が認証を受けるものです。

この認証により、下川町の森林が、世界で一番厳しい規準をクリアし、環境にやさしい森づくりの体制が整っていることが証明されました。下川町で生産されるFSC認証材を使った元禄箸は、日本でただ1つの宝物です。

[売りもの]

ボルト人形「ボルタ」(室蘭市)



概要

『ボルタ』とは、市民団体『てつのまちぶろじえくと』(通称テツプロ)が、鉄のまち室蘭を市民の手で盛り上げようと創り出したボルトやナット、ワッシャーなどをハンダづけして作られたボルト人形の愛称で、正式名称は『ムロランワニシのボルトマン』です。

当初は“鉄のまち室蘭”で鉄などの金属と触れ合って遊ぶ、年に一度のイベント『アイアンフェスタ』の体験コーナーとして製作された15cm程度の人形でしたが好評だったため、5cmに小型化し、より多くの人の手に届くように生産しました。2005(平成17)年に商品化され、室蘭市内のイベント会場で売り出され、翌年には室蘭市内2ヶ所で発売開始し、テレビなどのメディアでも取り上げられ室蘭市外で注目されるようになりました。元がボルトやナットとは思えない表情や多彩なポーズから人気は急上昇し、一躍室蘭の新たなマスコットとなりました。

ボルタは数多くのファンと『てつのまちぶろじえくと』の協力者により、2007(平成19)年9月には当初目標の100種類のポーズを完成させ、今では、“鉄のまち”室蘭のお土産として大いに喜ばれています。

登録されたムラの宝物の例

[ごはん]

芦別ガタタン(芦別市内)※詳細は芦別市HP参照



概要

炭鉱が賑わっていた当時から60年近く食べ続けられてきた「芦別ガタタン」は、ヤマの灯が消えた今も大切に引き継がれています。

芦別ガタタンとは「10数種類の具が入り、とろみのついた塩味のスープ」で中国北東部の家庭料理が由来です。戦後満州から芦別に引き揚げてきた人が、中華料理店を開業し、メニュー化したのが始まりで、当時のヤマの男たちにも親しまれた一品です。

近年では、官民挙げて芦別名物としてPRし、今では市内飲食店10店舗以上が提供するようになり、ガタタンを目当てに本市を訪れる観光客が増えつつあり、レトルト商品も販売されています。また、地元有志により「芦別元気会」が結成され「ガタタン千人鍋」の開催や札幌雪まつり会場の出店などを行い全道、全国へ発信し観光振興にも大きく寄与しています。さらに商工会議所では「芦別ガタタン」を団体商標として出願し、ブランド化の取り組みが活発に行われています。

[ムラの宝物発掘事例]

芽室遺産(河西郡芽室町)



概要

芽室町の豊かな自然や町民によって築きあげられてきた文化や産業・生活など様々な価値の中で、芽室町独自の視点で次世代に引き継ぎたい有形・無形の財産の中から「芽室の宝物」として町民により選定されたものを「芽室遺産」とし、2006(平成18)年1月25日に開催された最終審議により、6件を芽室遺産として決定しました。

芽室町の豊かな自然や町民によって築きあげられてきた文化や産業・生活など様々な価値の中で、芽室町独自の視点で次世代に引き継ぎたいと考えています。

